

生徒指導通信

令和8年6月11日
熊野町立熊野東中学校
生徒指導部

～その「いじり」、相手の心は泣いていませんか?～

体育祭という大きな行事を終え、学級の絆が深まったと感じている人も多いでしょう。しかし、仲が良くなったからこそ、言葉の距離感が近くなりすぎてはいませんか?親しみのつもりの「ひやかし」や「からかい」が、実は相手を深く傷つけているかもしれません。私たちの言動が相手を大切にする「礼(礼をつくす)」になっているか、改めて自らの足元を見つめ直してみましょう。

1. 「いじめ」の正体を知っていますか?

皆さんは「どこからがいじめか」を知っていますか?現在の法律(いじめ防止対策推進法)では、いじめを次のように定義しています。

「児童生徒に対して、一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む)であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」

重要なのは、「いじめた側の意図」ではなく「受けた側がどう感じているか」が基準であるということです。たとえ冗談のつもりでも、相手が「心身の苦痛」を感じていれば、それは立派ないじめなのです。

2. 「いじり」というカムフラージュの危険性

最近、テレビやSNSの影響もあり、「いじる」「いじられキャラ」という言葉がよく使われます。しかし、ここには非常に危険な落とし穴があります。

○「カムフラージュ効果」

加害者が「いじっているだけ(悪意はない)」と主張することで、いじめが「悪ふざけ」として隠されてしまうことがあります。

○「笑っているから大丈夫」の嘘

「いじられキャラ」にされた人は、その場の空気を壊さないために、心の中では深く傷ついていても、無理に笑っておどけて見せることがあります。

○「空気」という圧力

周囲が「本人が笑っているからいいだろう」と思い込むことは、本人の不快感や苦痛を抑圧させ、さらに状況を悪化させます。



3. 知ってほしい、実は「からかい」が一番あぶない

学校に来られなくなったりした深刻ないじめのきっかけの8割近くが「冷やかし」や「からかい」だったという調査結果が国から報告されています。「ちょっと言っただけ」「みんなもやってるし」。そんな軽い気持ちで放った一言が、相手の心に一生消えない深い傷を負わせ、その人が大

切にしている毎日を奪ってしまうほど、追い詰めてしまうこともあります。「冷やかし」や「からかい」は、人が自分らしく、前を向いて生きていくための力を失わせてしまうかもしれない、とても重大なことなのです。

4. あなたはどの層にいますか？「いじめの4層構造」

いじめは、被害者と加害者だけの問題ではありません。いじめには、イラストのように4つの層が存在します。

○被害者

孤独に苦しみ、声を上げられずにいる。

○加害者

直接、攻撃やからかいを行う。

○観衆

いじめを面白がって見ている。「観衆」がいることで、いじめる側は勢いづきます。

○傍観者

「自分には関係ない」と通り過ぎる。「傍観者」の沈黙は、いじめる側にとっては「認められた」という誤ったメッセージになります。

「観衆」や「傍観者」がいなくなることで、いじめは起きにくい環境になります。誰かが嫌な思いをしているのを見たら、「やめよう」と声をかける、あるいは信頼できる大人に伝える。その勇気が、仲間を救います。



5. 一人で抱え込まない。相談は「自律」への第一歩

もし、あなたが今「いじり」が辛いと感じていたり、周りで嫌な思いをしている人を見かけたりしたら、迷わず相談してください。中学校では以下のサポート体制を整えています。

○教育相談・アンケート

定期的実施する「いじめ・体罰アンケート」に正直な気持ちを書いてください。秘密は厳守します。

「ひとりで抱えこまないで」相談フォームも活用してください。

○専門家との連携

スクールカウンセラーや、スクールソーシャルワーカーと相談することもできます。

※学校安全・安心の日：毎月第3水曜日を相談日として設けています。

「当たり前」のもう一步先へ

相手への敬意（礼）を「やり切る」ことでいじめを撲滅して

誰もが自分らしく輝ける熊野東中学校を

みんなの手で創り上げていきましょう！